



上空から見たキャンプキンザーの西側

浦添市は、その地理的な特徴として市域の約14%近くを国道58号の西側部分をキャンプ・キンザーが占めています。キンザーの西側には広大な東シナ海が広がり、今もなお素晴らしい景観が残っていますが、市民の多くはそれを目にする機会がありません。

浦添市西海岸エリアは、昭和49年に那覇港湾計画に位置付けられて以降、様々な開発事業に取り組み、事業が完了した西洲（いりじま）地区には商業団地が完成。多くの事業者が沖縄県経済を支えています。一方で、地域の発展と那覇市への通勤エリアの拡大により、朝夕の通勤時間帯の国道58号は渋滞が著しく、雨の日や交通事故が発生した際は数キロメートルにも及ぶ大渋滞となり、経済的なロスばかりでなく環境への負荷も大きなものとなっています。

また、西海岸道路とキンザーとの間は、市の浦添市西海岸開発事業（第一ステージ地区）によって新たな商業エリアが誕生し、大型商業施設の立地が予定されています。

少しづつその全貌を見せつつある浦添市の新しい西海岸。

浦添市にとって、この道路が「明るい未来へのかけ橋」となるのは、もう間近に迫っています。



これを解消するため、国は浦添市の西海岸を通過する新たな道路整備計画を立案しました。これが西海岸開発計画です。この計画は糸満市から読谷村に至る延長約50kmの計画で、そのうち浦添市を通過する2つの道路、臨港道路浦添線と浦添北道路が、いよいよ平成29年度内に完成を迎えようとしています。

特集

未来へのかけ橋 西海岸道路

国道58号を北へと向かうと、その左手に広大なキャンプ・キンザー（牧港補給地区）が目に入ります。キャンプキンザーの向こう側には浦添市の自然豊かな海が広がり、今、その西海岸に新しい道路と商業エリアが誕生しようとしているのを、ご存知ですか。今月は浦添の新しい顔となるエリア、西海岸地域の現在についてご紹介します。

2017年度開通へ！

— 国道58号の渋滞軽減、那覇空港からのアクセス向上 —



渋滞と環境負担の軽減

西海岸道路が出来る事によって、国道58号の交通負荷が大きく軽減し、地元住民も利用しやすくなります。排気ガスや騒音の軽減にもつながり、周辺環境もよくなることが期待されます。



観光都市への発展

那覇空港からうみそらトンネルを経由して、浦添市へアクセスしやすくなります。周辺をリゾートとして開発し、多くの観光客の流入が期待されます。

